

2015年度 第2四半期決算説明会における主な質疑応答の要旨

<日 時>2015年11月5日(木) 17時30分~18時40分

- Q 1. この上期は全体的に中計に沿って順調なイメージがある。この半年間でうまくいかなかったことや、次の半年で優先的にやるべきと考えていることはあるか？
- A 1・海外は期待していた通りに進んでいる。アジアのデルモンテ事業だけが、世界的なパインナップルの不作により原料が不足し、予定した売上に達しなかったが、それ以外は予定通りだ。
- ・国内は、しょうゆ、豆乳と、当社が伸ばさなくてはいけない事業が順調に伸びている。一方、つゆは利益の改善が課題であると考えている。デルモンテは原料が高騰しているが、4月に価格を改定し、浸透しつつある。今後も引き続き付加価値の高い商品を開発して、利益率を高めていきたい。
- Q 2. 北米のしょうゆ事業の成長が足元で弱いようだが、現在どのような状況にあるか？
- A 2・アメリカは、景気が良いとレストランの客足が伸びる。現在は景気が良いため、業務用を中心に伸びていく余地がある。家庭用はシェアが相当高くなってきているので、しょうゆのマーケットの伸びと同様のペースで伸びるだろう。また、メキシコ市場は北米の販売会社が担当するようになった。カナダやメキシコ市場の開拓を進めることにより、北米はまだまだ伸びしろがあると考えている。
- Q 3. アジア・オセアニア地域のしょうゆ事業の下期予想の伸び率は、為替差除きで6%程度であり、少し低いように思う。現在のアジア市場の動向をどのように捉えているか？また、中国市場の動向は？
- A 3・アジアは、国によって食の嗜好が異なる。それぞれの国に合った商品の開発を行っている。新商品を育てるには若干時間がかかると思うが、順調に市場の開拓が進むと考えている。
- ・中国も、時間とともに市場の開拓が進んでいくと考えている。
- Q 4. 国内のしょうゆ事業が第2四半期も伸び続けている。これは「いつでも新鮮」シリーズ好調の影響で伸びているのか？
- A 4・「いつでも新鮮」シリーズ好調の影響で伸びている。
- Q 5. つゆの密封ボトルの新商品の反応は？また、この商品が育てば、利益率は改善するか？
- A 5・市場の反応は良い。時間はかかると思うが、ある程度の規模まで育てたい。容器コスト等は若干高い商品であるが、ある程度売れた際には利益が確保できると考えている。
- Q 6. 豆乳の伸び率が、第2四半期に鈍化している理由は？
- A 6・第1四半期は、駆け込み需要の反動の影響もあり伸び率が高かった。第2四半期は、得意先に対する販促条件の見直しを進めていることもあり、その影響が出ている。下期の伸び率の予想は、年初予想とほぼ変えていない。

Q 7. 国内の体質改善施策の進捗状況は？

- A 7. 「営業効率の向上」に関しては、得意先を絞り込み 1 人当たりの営業効率を上げるように取り組んでいる。「物流効率の向上」に関しては、配送ロットをなるべくまとめるようにしている。コストの観点だけではなく、現在はトラックの確保が難しい時代でもあり、より効率的に運ぶように努める。いずれも相手がある話なので時間はかかるが、根気よく取り組む。
- ・「労働生産性の向上」に関しては、生産現場における多能工化を進めている。これは労使間での話し合いが必要で、労働組合の理解を得ながら、効率的な生産活動を進める。
 - ・「製造原価の改善」に関しては、日々の仕事の中で取り組む。これはすぐに成果が出るものではないが、中期経営計画の中で着実に進めたい。
 - ・いずれの施策についても、来期、再来期に効果が現れてくると考えている。

Q 8. 上期の国内事業の営業利益率が 4.9%まで上がっているが、下期予想では 3%に下がってしまうのはなぜか？

- A 8. 下期はある程度広告宣伝を行う予定だ。また、最近の傾向として、上期の方が利益率が高い。利益率の高い豆乳のウエイトが大きいためである。下期についても利益率を高めていくように努力する。

Q 9. 業績予想の修正について。国内の売上は年初予想とあまり変わっていないにもかかわらず、利益増減分析では「売上増減による影響」による増益額が増えているのはなぜか？

- A 9. しょうゆや豆乳といった、利益率の高い商品の売上構成が高まったため。

Q 10. 株主還元について。改めて配当についての考え方を教えてほしい。また、自己株式取得に関しては、「機動的に実施したい」としているが、どのような条件が揃った場合に、自己株式取得を行うのか？

- A 10. 現時点で配当予想を変えることはしないが、配当性向 30%以上の目標は達成するよう努力したい。
- ・自己株式取得に関しては、時期は決めておらず、資金需要やマーケットの状況等を総合的に勘案して決める。何らかの条件が揃えば必ずやる、という決め方はしていない。

Q 11. ROE に関しては、将来的にどのくらいを目安として考えているのか。また、その目安を目指すに当たり、自己株式取得は補完的な役割という理解で良いか？

- A 11. 昨年度の ROE は 6.9%だが、この中期経営計画においては、主に利益率を上げることによって 9%以上を目指す。その先は 2 桁を目指す。
- ・自己株式取得は補完的な役割であり、自己株式取得によって ROE を上げていくという考えではない。

Q12. TPP についてチャンスやリスクと考えていることがあるか？ 添加物・ラベル等の問題も含めて、事業への影響はあるか？

A12・どのような影響があるか、現在分析中である。ただ、貿易上で関税や手続きの障壁がなくなり、物や人が行き来しやすくなることは経済を活性化させるため、基本的にはチャンスとしてとらえるべきだ。また貿易の規制がなくなることで、輸出入の手続きがやりやすくなると感じている。リスクとしては、表示や安全性の問題などがあり、これらをクリアしなければいけない。

以上